

お客様各位

*** 白蟻防除施工の薬剤について ***

まず薬剤についてですが、1986年迄は有機塩素系のクロルデンが使用されていましたが、人体と環境に大変な負荷がかかるとのことで使用が禁止されました。その後、有機リン系のクロルピリホスという成分の防蟻剤が主流となりましたが、これも数年前に使用禁止となりました。現在はピレスロイド系、及び、ネオニコチノイド系の防蟻剤が大いに使用されています。成分はいずれも農薬系のもので、人体にも、環境にも相当なる負荷を与えるものです。

私はその毒性について、お客様の反応もさる事ながら、自分自身をもって体験しております。かなりの個人差が有るものの、その毒性は実に破壊的なものがあります。

反応も「急性」「亜急性」「慢性」と、人により異なります。急性・亜急性では、耐え難い臭気、吐き気、めまい、悪心などの状況が出現し、慢性中毒では、薬剤にある程度、順応、適応して、3年、5年、10年後に症状が現れる場合もあります。

持病や、加齢から来るところのものと、複合的、総合、合併的に絡んだ場合、その症状と薬剤との因果関係を裏付けることはとても困難となります。

特に、防蟻業者達は、すでにかかなりの順応、適応状態にあるはずですが。症状の出していない方も潜在・潜伏期間であって、いずれ顕在化するのは時間の問題と思われれます。

この薬害については、様々な方が自身の体験を語っておられますが、肉体だけでなく、精神的にも、生命にヒビを入れていくと訴えています。かつて私自身が、そうであったように。



図13 総身体負荷量と化学物質過敏症の発症

化学物質、防蟻剤の本当の怖さ、恐ろしさは、 まだまだ世に知られていないのです！

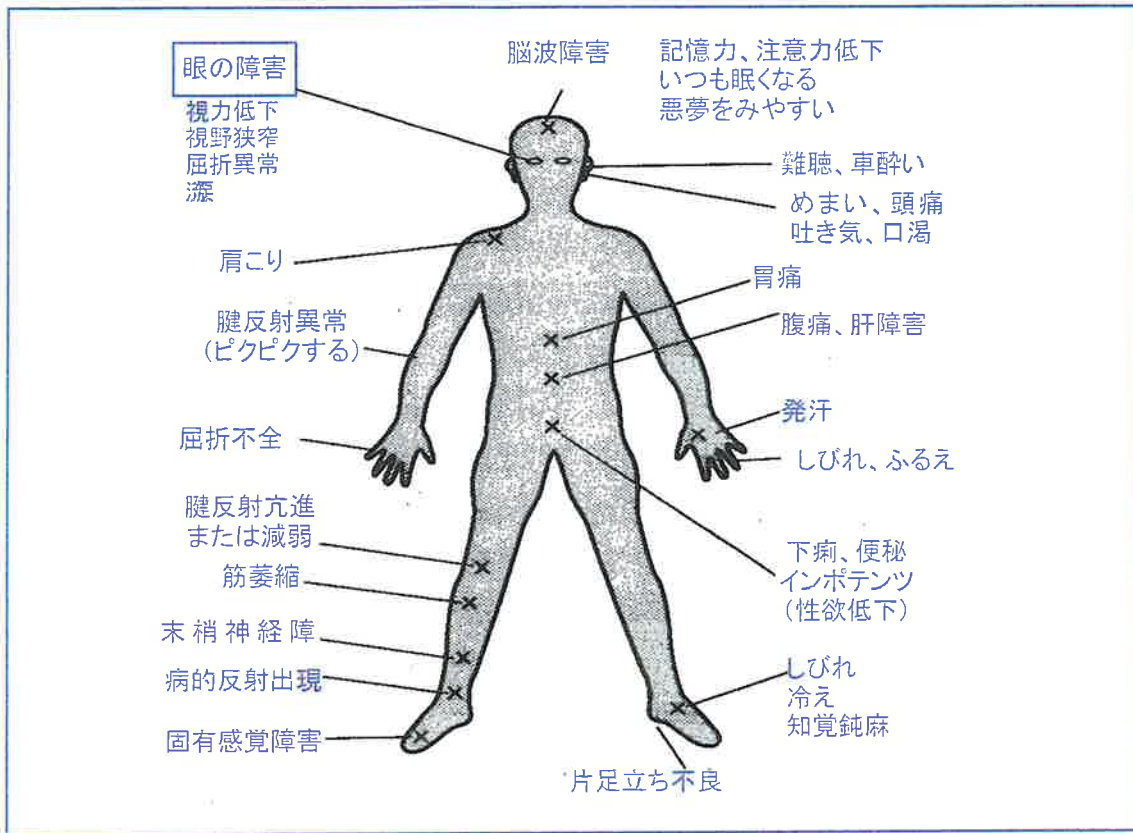
薬剤メーカーのいっていること、そして有名大学農林系教授達のお墨付きなどはそれ相応に受け止めるべきと思います。

年間、60万トンの農薬が日本列島に散布されています。防腐、防蟻、害虫駆除という名目で、各家庭は元より、田畑で、樹木に、果実に、ビルに、公共の施設に、地下鉄に、バスに、新幹線に、河川敷に、公園に……。人の心も、環境も、今、悲鳴を上げています。

他社の『人と環境にやさしい薬剤です』の言葉に気を付けて下さい。ほぼ全ての薬剤に農薬系の薬剤が混入されている懸念があります。



慢性有機リン中毒の症状



石川哲作成「現代農業」1982年6号37頁より 「農業毒性の事典」(三省堂)

普通物、劇物、毒物の定義 (LD₅₀ 数値) と殺虫剤の LD₅₀ 数値

普通物、劇物、毒物の LD₅₀ 数値

30mg/kg 以下 = 毒物

30~300mg/kg = 劇物

300mg/kg 以上 = 普通物

LD₅₀ とは? (単位: mg/kg)

複数のラットに投与した際、**半数のラットが死亡した時点での投与量**。つまり数値が少ないほど少量で半数が死亡した(危険度が高い)というこ

●過去に使用されていた殺虫剤の LD₅₀ 数値

メチルパラチオン	14	— 毒物
パラチオン	3.6	
ディルドリン	60	— 劇物
DDT	110	
γ-BHC	125	

●現在使用されている殺虫剤の LD₅₀ 数値

アトリン	580
ペルメリン	430
フェントロチオン	800
マラチオン	2,800
ピリプロキシフェン	5,000
ヒドラメチルノン	1,130

普通物

これを学者は「普通物」と呼称させています。

とんでもない!! 人体にも環境にも大変な負荷を与えるものです!!

手芸業界を28才で去り、29才より消毒業界に席を置く。3社で20年間、防蟻施工に従事し、その間、急性肝炎と胆のう炎を3回罹病するものの、原因は判明しなかった。

防蟻剤は適量を遵守していれば別に問題はないと聞き及んでいた。薬剤メーカーのパンフレット、資料、また、農林系大学教授の安全データも信じていた。

身体も別に異常を感じることもなく歳月が流れた。しかし11年目にそれは突然にやってきた。私の化学物質への許容量がついに限界に達したのだ。

それは怒涛のごとく、私自身の身体を苛んだ。何とも表現の仕様のない体調の悪さなのである。動悸、悪夢、自律神経失調症に似た症状というか不定愁訴、パニック症候群……化学物質過敏症の初期段階であったと思う。

ヘビースモーカーの私が全くタバコを吸えなくなり、パンは胸焼けがして食べられず、好きだったコーヒーも飲めなくなった。不安やイラつきが頻繁に起こった。

北里大学の石川哲医師からミネラルを意識して摂取するように、また、中和剤もあるが、できる限り服用しないようにとアドバイスを受けた。

以来、20数年、お陰様で激しい症状は緩和されたものの、未だに後遺症を抱えている。

**被害者になって初めて私自身が加害者であったことを知り、
被害者になって初めて農薬系薬剤の怖さを知りました。**

被害者になる前に皆さまに知っていただきたいこと

『低毒性の薬剤です』『天然素材です』の謳い文句に注意してください！

- 低毒性ということは農薬（化学物質）も入っているということです。
- 天然素材が入っているという言葉で農薬が入っていないような印象を与えます。
- 天然素材では安価な施工料金では絶対といってよいほど不可能です。
さもなければ、附帯工事名目で別料金を加算されるおそれもあります。
- 天然素材（現時点で限りなく人体に負荷のかからない材料）で全施工を行っている業者は、東京、及び、近郊では弊社の他、別の素材で施工している数軒のはずです。

施工料金だけで判断をなさると、農薬の混入した薬剤はいずれあなたやご家族の身体に負荷を負わせます。良き判断をなさってください。

**食品ならば識別、選別が可能です。
しかし家屋が化学物質で汚染されると、
空気を吸っている限り摂取し続けることになるのです。**